

新規事業採択時評価結果（平成26年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 環境安全課
担当課長名： 増田 博行

事業の概要

事業名	地域高規格道路 西彼杵道路 一般県道 奥ノ平時津線 時津工区	事業区分	地方道	事業主体	長崎県
起終点	自：長崎県西彼杵郡時津町日並郷 至：長崎県西彼杵郡時津町野田郷	延長	3.4 km		
事業概要 西彼杵道路は、佐世保市と西彼杵郡時津町を連絡する総延長約50kmの地域高規格道路。 一般県道奥ノ平時津線 時津工区は、西彼杵道路の一部を構成する区間であり、現道区間の交通混雑の緩和や地域の産業・経済の活性化に大きく寄与し、また、災害時の代替路として期待されている道路。					
事業の目的、必要性 ・一般県道奥ノ平時津線時津工区は、西彼杵地域と県都長崎市を連結し広域ネットワークを形成するとともに、時津町中心部の現道の通過交通を排除し、交通渋滞の緩和や、安全性の向上、沿道環境の改善に資する道路である。					
全体事業費	89億円	計画交通量	13,400台/日		
事業概要図 					

関係する地方公共団体等の意見
 時津町などの沿線自治体で構成される西彼杵道路建設促進期成会（時津町、長崎市、西海市、長与町）等より西彼杵道路の早期整備を要望されている。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 -

事業採択の前提条件
 費用対便益：便益が費用を上回っている。
 手続きの完了：都市計画決定の告示が完了（H25.5.31）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.4	総費用：73億円 （事業費：72億円 維持管理費：1億円）	総便益：98億円 （走行時間短縮便益：62億円 走行費用減少便益：27億円 交通事故減少便益：9億円）	基準年 平成25年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.5 (交通量+10%)	B/C=1.2 (交通量-10%)	
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費+10%)	B/C=1.2 (事業費-10%)	
		事業期間変動	B/C=1.4 (事業期間+20%)	B/C=1.3 (事業期間-20%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	通過交通の転換により混雑が緩和。 【交通渋滞の緩和】 ・周辺主要渋滞箇所2箇所（H25.1公表） 並行現道混雑度1.19（H22道路交通センサス）	
		事故対策	○	通過交通の排除等により通過交通に起因する死傷事故が減少。 [死傷事故率] 【安全性の向上（事故の減少）】 ・時津工区 並行現道区間：157件/億台km（現況） ※県内平均死傷事故率 68.8件/億台kmの約2.3倍	
	歩行空間	-	・注目すべき影響はない		
	社会全体への影響	住民生活	○	・第三次救急医療施設「長崎大学病院」へのアクセス向上	
		地域経済	○	・大村湾沿岸部（時津第10工区等）の開発への支援	
		災害	◎	・津波浸水区域を回避し、第1次緊急輸送道路の機能強化	
環境		-	・注目すべき影響はない		
地域社会	○	・時津町～長崎市間の交流・連携の促進への寄与が期待される。			
事業実施環境		○	都市計画決定手続きが完了（H25.5.31） 時津町などの沿線自治体で構成される西彼杵道路建設促進期成会（時津町、長崎市、西海市、長与町）等より西彼杵道路の早期整備を要望されている。		

採択の理由

事業主体である長崎県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、周辺の渋滞緩和、高次医療施設へのアクセス向上、緊急輸送道路の機能強化が図られるなど、当該事業の整備の必要性、効果は高いものと判断される。
 以上により、本事業を平成26年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。